経営ビジネス学科（文系）

財務会計研究室

准教授・大学院准教授　姚（ヨウ）　小佳（ショウカ）

博士（商学）／近畿大学

e-mail　yaoxiaojia@fuk.kindai.ac.jp

【Keywords】
- 収益認識
- 保険会計
- 農業会計
- 非財務情報

研究概要

財務会計を中心に研究しており、具体的には、利害関係者が意思決定を行う際に会計情報がどのような役割を果たしているのか、また、今日のようなグローバル経済社会において、企業の経営実態を的確に表す会計情報の作成に必要な会計基準について研究しています。

【1】収益認識

収益、つまり売上は企業の業績を表す重要な数値です。そのため、収益がいついくらで計算されるかに、多くの人が関心を寄せています。現在、取引の経済的実質を反映できる包括的な収益認識基準の必要性が認識されています。

【2】農業会計

農業活動に関して、国際的な会計基準は存在していますが、日本にはありません。果樹や牛馬豚などの生物資産や果物などの農産物をどのように会計処理するのかに関する会計基準の開発は喫緊の課題です。

【3】保険会計

保険会社は法律上の規制を強く受けるとともに、一般事業会社と異なる組織形態やビジネスモデルを有しているため、業種に特有の会計処理が多く採用されています。特殊業種としての保険会社の会計には多くの興味深い論点があります。

【4】非財務情報

特許やブランド、ノウハウなどの無形資産が企業価値およびその評価を大きく左右するという認識が高まっています。そこで、長期的な視点から、財務情報の開示とともに、無形資産情報を含む非財務情報の開示が重要な問題として議論されています。

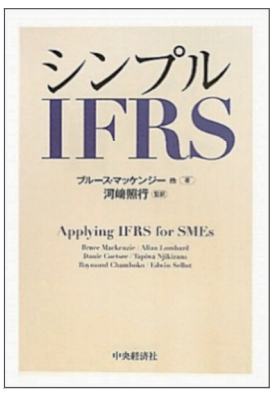
最近の研究実績

〈論文〉

1）「企業価値評価における統合報告の意義」『商経学叢』第63巻第1号(2015)
2）「損害保険業における簿記処理の実務」日本簿記学会簿記実務研究部会最終報告書(2014)
3）「農業収益認識への公正価値モデルの応用」『JAA会計プログレス（日本会計研究学会）』第14号(2013)
4）「収益認識モデルに関する研究―IASB・FASB収益認識プロジェクト『2011年公開草案』を中心として―」『JAA会計プログレス（日本会計研究学会）』第13号(2012)
5）「収益認識における公正価値モデルの分析―ボート製造業者の取引事例の簿記処理をめぐって」『日本簿記学会年報』第26号(2011)

〈共著〉

戸田龍介編著『農業発展に向けた簿記の役割―農業者のモデル別分析と提言』（第13章担当）中央経済社(2014)

〈共訳〉

1）浦崎直浩・菅原智（監訳）『会計職業倫理の基礎知識』（第8章前半）中央経済社(2016)
2）河崎照行（監訳）『シンプルIFRS』（第18章・第22章担当）中央経済社(2011)